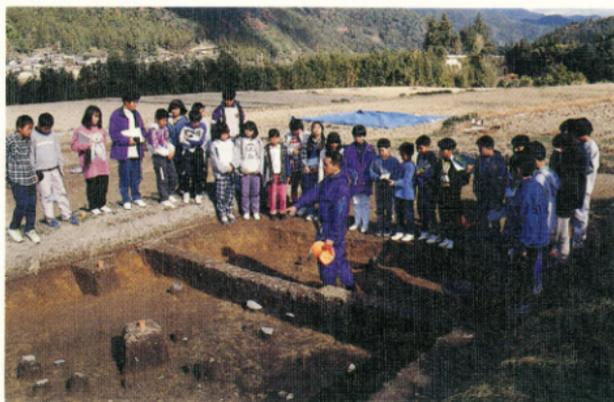


田 畠 遺 跡

(高知県土佐郡土佐町)

—宮古野地区県営圃場整備事業に伴う田畠遺跡発掘調査報告書—



1996. 3

高知県土佐町教育委員会

田 畠 遺 跡

土佐町埋蔵文化財発掘調査報告書第1集

1996. 3

高知県土佐町教育委員会

巻頭カラー



雙穴住居完掘状況（西側より）

序

土佐町は高知県の嶺北地域においては産業・経済の中核を成し、町の東北部にある早明浦ダムは「四国の水がめ」として、下流域の人びとの生活を潤しています。わか町では「森と水の憩いのふるさと」を標榜し、豊かな自然と人情に囲まれた暮らし良い町を目指すとともに、香り高い文化の町づくりにも取り組んでいるところです。

私たちの郷土の歴史は、県下でも著名な八反坪遺跡や玉屋敷遺跡からの出土遺物により縄文時代までさかのぼることが確認されています。しかしながら僅少な資料のみであり、遺構の発見もなく、郷土の原始・古代史像を概観するには十分なものとはいえませんでした。

このたび、宮古野地区県営園場整備事業に伴い、田島遺跡の発掘調査を実施したわけですが、町内で初めて古墳時代初頭とみられる竪穴住居が発見され、古代の人びとの生活の跡を目のあたりにすることとなりました。このことは土佐町における古代史解明にあたって、一つの画期となる成果でありました。また畿内より搬入された古式土師器（庄内式土器）の出土は、土佐町と他地域との交流を示す貴重な資料となりました。

歴史学は、過去の事実を知るにとどまらず、歴史の歩んできた方向性を捉え、現代社会を生きる私たちにとっては、未来への指針を模索し、進むべき道を導き出すという重要な役割を持っています。そして埋蔵文化財の発掘は、地下に眠る先人の遺産を調査し、「モノ」を通じて歴史を解明していく重要な作業といえます。

当町における埋蔵文化財行政への取り組みは、今、端緒を開いたといっても過言ではありません。今回の調査は土佐町における古代集落址の存在を確信させるものとなりました。考古学が果たす役割の重要性に鑑み、今回の調査を契機として、今後の発掘調査の結果が、郷土の歴史ひいては嶺北地域の歴史解明に大きな成果をもたらすことを期待するところであります。

終わりにになりましたが、発掘調査・報告書作成にあたって全面的なご協力を頂いた出原恵三先生をはじめ、高知県教育委員会、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター、高知県南国耕地事務所、宮古野地区土地改良区、発掘作業に従事して頂いた皆様など関係各位に対しまして、ここに厚くお礼申し上げます。

平成8年3月

土佐町教育委員会

教育長 窪内 勇

例 言

- 1 本書は、土佐町教育委員会が国庫補助金を受けて平成7年度に実施した宮古野地区県営圃場整備事業に伴う田畠遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 田畠遺跡は、高知県土佐郡土佐町南泉字田畠10他に所在する。
- 3 発掘調査は、平成7年11月6日から開始し、12月7日まで実施した。出土遺物の整理作業及び報告書作成の業務は平成8年3月31日まで行った。

発掘調査及び遺物整理・図面作成作業、また報告書作成にあたっては、出原恵三氏（高知県文化財団埋蔵文化財センター 調査第3係長）から甚大なる協力を得ることができたとともに、貴重な助言、教示を得た。記して深く感謝の意を表したい。

4 調査面積

- (1) 調査対象面積 33,000㎡
- (2) 調査面積 500㎡

5 調査体制

調査員及び事務担当 筒井敬二（土佐町教育委員会 主事）

- 6 本書の編集・執筆は、筒井が行った。
- 7 発掘現場作業員は下記の方々である。寒さの中、献身的に発掘作業に従事して下さったことに対して心より厚くお礼申し上げる。
宮村吉宗 今西次男 樋口佳伯 川村清春 小松和則
- 8 当遺跡出土資料は、土佐町教育委員会が保管している。遺跡の略号は95-29 TTである。
- 9 発掘調査の実施にあたっては、高知県南国耕地事務所並びに土佐町役場農林建設課の全面的な協力を得ることができた。併せて宮古野地区土地改良区をはじめ調査地の地権者の方々にも、種々ご協力を頂いた。記して感謝の意を表したい。

本文目次

第I章 調査に至る経緯	1
第II章 周辺の歴史・地理的環境	2
第III章 調査の方法	4
第IV章 調査の成果	6
1. 基本層準	6
2. 出土遺構と遺物	6
(1) ST1	6
(2) その他の遺構及び出土遺物	9
1) 土坑	9
2) ビット	9
3) 包含層出土の遺物	10
第V章 まとめ	11

図版目次

Fig. 1	土佐町位置図	2
Fig. 2	周辺の遺跡分布図	3
Fig. 3	調査地点位置図	5
Fig. 4	基本層準	6
Fig. 5	拡張区検出遺構全体図	7
Fig. 6	ST 1 平面及びセクション図	8
Fig. 7	ST 1 出土遺物実測図	9
Fig. 8	P 1～3, SK 2 平面及びエレベーション図	10
Fig. 9	土坑・ビット・包含層出土遺物実測図	11

表目次

遺物観察表 (土器)	13
遺物観察表 (鉄器及び石器)	14

写真図版目次

PL 1: 田島遺跡全景, 拡張区発掘調査風景	17
PL 2: グリット 1・2・5・7・9・10	18
PL 3: グリット 11・12・13・14・15・16	19
PL 4: グリット 20・21・22・23・29・31	20
PL 5: 下段東壁セクション, 同上	21
PL 6: ST 1 検出状況, ST 1 セクション及び遺物出土状況	22
PL 7: ST 1 中央ビット半截, ST 1 中央ビット完掘状況	23
PL 8: ST 1-P 1 遺物出土状況, ST 1 完掘状況 (東から)	24
PL 9: 上段調査区全景, P 1・2・3 完掘状況	25
PL 10: 拡張区 (下段) 完掘状況 (西から), 拡張区完掘状況遠景 (東から)	26
PL 11: 遺物出土状況	27
PL 12: ST 1 出土遺物, SK 2・P 11 出土遺物	28
PL 13: ST 1, P 13・14, 包含層出土遺物	29

第I章 調査に至る経緯

土佐町は四国山地に囲まれた中山間の町である。土佐町の基幹産業は第1次産業であるが、そのうち農業は、昭和60年からの5年間で生産額26.5%減、就業者数32.4%減となっている。立地条件による生産基盤の制約、生産性の低さ、社会情勢の不安定による産業構造の空洞化現象など、農業を取り巻く問題は山積している。経営耕地面積は減少しており、経営面積別農家の構成比には大きな変動がないことから、離農した世帯の耕地は転用または荒廃し、現在、農家の経営規模拡大にはあまり活用されていない。その要因として、基盤整備の遅れが上げられる。

圃場整備については、急傾斜地で棚田が多い地形での基盤整備は非常に困難をきたしている状況であるが、平成7年度より地藏寺川の中下流域の農地35ヘクタールを対象とした宮古野地区県営圃場整備事業が開始された。これは狭隘で不整形な農地の区画整理や統合・拡大、農道・用排水路等の系統的な整備を進め、近代的な農地への転換を図ることを目的とするものである。と同時に、近年特に多様化しつつある農業に対応し、合理的な経営と集約農業による農家所得の増収を目指し、中山間地域における農業を守るための施策として実施されるものである。

一方、当事業対象地域内には、平成2年に高知県教育委員会により実施された遺跡分布調査により、新たに確認された遺跡が点在している。しかしながら、当該遺跡は散布地としての登録であり、地下における遺跡の範囲及び性格等については不明であった。

埋蔵文化財は、過去の事実を蔵しているのみならず歴史の歩んできた方向性を示し、現代社会を生きる私たちにとっては、未来への羅針盤としての役割を担っているところの真に国民の共有財産として位置付けられている。埋蔵文化財保護の原点は遺跡の現状保存であると言えるが、その一方で、発掘調査によって得られる成果は、それがたとえ開発に伴う事前調査であったとしても、歴史を解明する上で大きな意味を持つ。

今般の圃場整備事業実施にあたっては、事前の試掘調査が実施できていなかったため、遺跡の概要については不十分な情報しか持ちえていなかったが、遺跡のもつかかる重要性に鑑み、開発部局に対して埋蔵文化財の保護と調和のとれた開発行為の実施について、平成7年3月以降、数次にわたって協議した。その結果、遺跡の性格、範囲、遺構等の状況を把握する目的で、工事によって掘削並びに削平される部分を調査対象に、田畠遺跡を中心に、併せてその周辺についてもテストピットを設定し、試掘調査を実施することとした。

その結果、田畠遺跡に該当する箇所において古代の遺構が検出されたため、引き続きその箇所について、調査面積を拡張することとした。調査面積は、遺構検出に伴う拡張部分が300㎡、全体では500㎡である。調査は土佐町教育委員会が主体となり、機材搬入など諸準備を整え、平成7年11月6日に開始し、12月7日に終了した。

第Ⅱ章 周辺の歴史・地理的環境

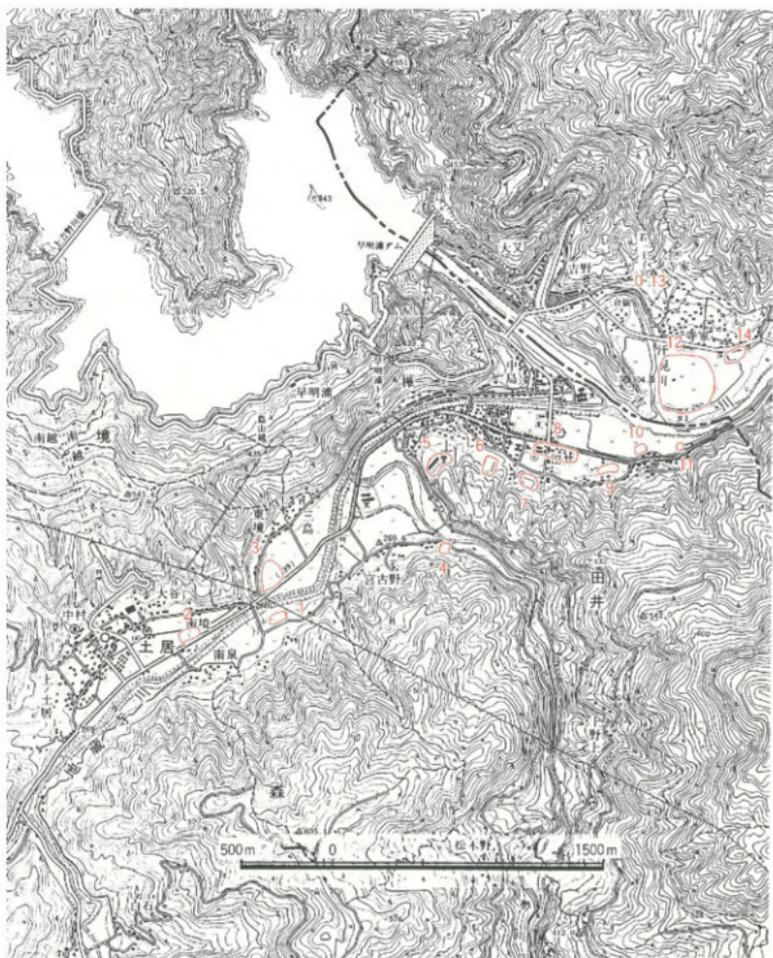
田高遺跡のある土佐郡土佐町は、四国のほぼ中央に位置し、近隣の4か町村と共に嶺北地方を形成している。町の大部分は森林で占められ、町の北部、西部及び南部の三方はいずれも1,000m級の山に囲まれている。東部は、吉野川がその支流である地藏寺川と合流する田井付近で広潤な平地が開け、東方への開口部となっている。吉野川とその支流に沿って主要道路が発達し、耕地が開け集落が形成されている。吉野川は四国最大の河川であり、物流通の動脈としての役割を果たしてきた。また瀬戸内海側と太平洋側を結ぶ中間の地点でもある。このような地理的な環境が土佐町の歴史・文化の形成に重要な影響力を持ったと考えられる。

田高遺跡は、土佐町南泉字田高にあり、地藏寺川右岸に形成された段丘上に立地し、標高260m程を測る。地藏寺川が吉野川と合流する地点から上流へ約2.5kmの地点である。ここから下流域と吉野川の流域には、縄文時代から古代・中世に至る遺跡が数珠繋ぎに分布しており、吉野川上流域における遺跡密集地を形成している。

土佐町の歴史は、王屋敷遺跡からの出土遺物により縄文時代中期初頭まで遡ることができる。船元Ⅰ式併行の土器が、横型石匙1点、石鏃15点とともに出土しており、この他にも中期中葉と考えられる土器片や後期前葉の磨消縄文土器が出土している。続いて晩期の遺跡として、八反坪遺跡⁽¹⁾があげられる。この遺跡からは突帯文以前の深鉢・浅鉢が比較的多く、磨製石斧やノミ状石斧とともに出土している。黒土BⅠ式に併行する晩期前半の土器は、八反坪式土器と命名されている。⁽²⁾ 弥生時代のものでは、通称岡（八反坪遺跡南の微高地）から弥生中期の土器が出土している。⁽³⁾ また八反坪遺跡からは古墳時代初頭のヒビノキⅢ式土器片も出土している。



Fig. 1 土佐町位置図



No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代
1	田島遺跡	弥生・中世	6	田井古家遺跡	弥生	11	鳥井遺跡	縄文
2	沖田遺跡	縄文	7	下モ田遺跡	弥生	12	松ノ木遺跡	縄文~古墳
3	静岡遺跡	縄文	8	八反坪遺跡	縄文	13	長徳寺遺跡	縄文~中世
4	高笹遺跡	弥生	9	種ノ口遺跡	縄文・弥生	14	東久保遺跡	弥生
5	玉屋敷遺跡	縄文	10	大畑遺跡	弥生			

Fig. 2 周辺の遺跡分布図

周辺で最古の遺跡としては、本山町長徳寺遺跡があり、縄文早期の葛島式土器と高知県では初出土の大型楕円形押型文土器である高山寺式土器が出土している。また、松ノ木式土器の出土により注目を集めることとなった松ノ木遺跡は、縄文時代から古墳時代に至る複合遺跡であり、また縄文時代を中心とした圧倒的な出土遺物量と共に、この地域の縄文時代研究の上で重要な位置を占めている。

土佐町には原始・古代を探る資料は少なく、その全容を解明するにあたっては、近隣での発掘成果を踏まえると共に、今後、町内で実施される調査の成果が待たれるところである。

註

- (1) 岡本健児・宅間一之・森田尚宏・井本葉子 「玉屋敷・八反坪遺跡と出土遺物」『土佐町資料』 高知県土佐郡土佐町教育委員会 1981年
- (2) 前掲註(1)
- (3) 前掲註(1)
- (4) 岡本健児他 「長徳寺址発掘調査報告書」 高知県長岡郡本山町教育委員会 1977年
- (5) 出原恵三 「松ノ木遺跡 II」 高知県長岡郡本山町教育委員会 1992年

第三章 調査の方法

田島遺跡は散布地であるため、地下の遺跡の性格、範囲、深度、遺物の包含状況等についてはまったく不明であった。このため、遺跡登録されている部分を中心に、その周辺の広い範囲のうち、工事によって削平される箇所について、 $2\text{m} \times 2\text{m}$ ないし $2\text{m} \times 3\text{m}$ のテストピットを任意に設定し、地下の状況を確認することとした。その数は39である。

まず重機により耕作土を除去し、その後、人力により遺物包含層の検出を行った。遺跡の範囲以外の箇所では、土器の細片は採取されるものの、遺物包含層及び遺構の確認には至らなかった。その中で、田島遺跡の範囲中において遺物包含層及び遺構が検出された。そのため、遺構の性格、広がりを確認するためにテストピットを拡張し、重点的に調査することとした。拡張部分は比高差約1mの南北2枚の水田にわたり、その面積は300 m^2 となった。

拡張調査区の遺物取り上げ・遺構実測にあたっては、磁北にあわせた任意座標を組み、南北方向に北からA・B・C……、東西方向に西から1・2・3……のNoを4m毎に符してグリットを設定した。包含層についてはグリット毎に遺物の取り上げを行い、遺構からの出土遺物については遺構名を符して取り上げた。遺構の平面及びセクションの実測、地層断面図は20分の1の縮尺により原図を作成した。



Fig. 3 調査地点位置図 (S = 2000)

第IV章 調査の成果

1. 基本層準

拡張調査区は比高差約1mの南北2枚の水田に分かれているため、北側・南側双方とも東壁セクションを観察した。

上段(南側)と下段(北側)の南半分は現耕作土を除去すると遺構検出面であるが、下段の北半分は旧地形が地藏寺川の方方向にかなり傾斜しており、旧耕作土や客土などが厚く堆積している。

基本的な層準は次のとおりである。

- IX層：黄色砂礫土層（地山である。）
- Ⅷ層：淡茶色粘質土層（2～5cm大の礫を多く含む。）
- Ⅵ層：黄灰色粘質土層（2～5cm大の礫を多く含む。）
- Ⅴ層：灰茶色粘質土層
- V層：灰色粘質土層（2～3cmの小礫を多く含む。旧耕作土である。）
- IV層：黄茶褐色砂礫土層（客土である。弥生～近世の遺物を含む。）
- Ⅲ層：灰褐色粘質土層（2～3cmの小礫を多く含む。客土である。）
- Ⅱ層：水田床土
- I層：現耕作土

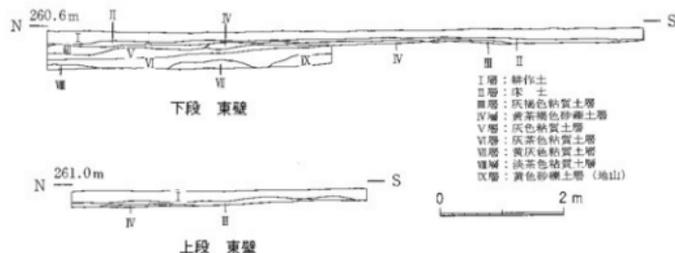


Fig. 4 基本層準

2. 検出遺構と遺物

(1) ST 1

拡張調査区の南で検出された竪穴住居址であり、方形プランを有する。北側の一部と南側の4分の1程度が調査区外のため、全体の規模を確認することはできないが、一辺6mほどを測ると推測される。埋土はI～Ⅲ層に分けられるが、Ⅱ層（濃茶色粘質土）が主要層準を形成している。北西部に土坑SK 1があって、双方の切りあい関係は不明確であるが、ST 1が切っている可能性が強いとみられる。検出面から床面までの深さは30cm～40cmを測る。西面から北面そして東面の一部にかけて、高さ4cm～8cm、幅70cm～115cmのベッド状遺構を有しており、地山削り出しによって段

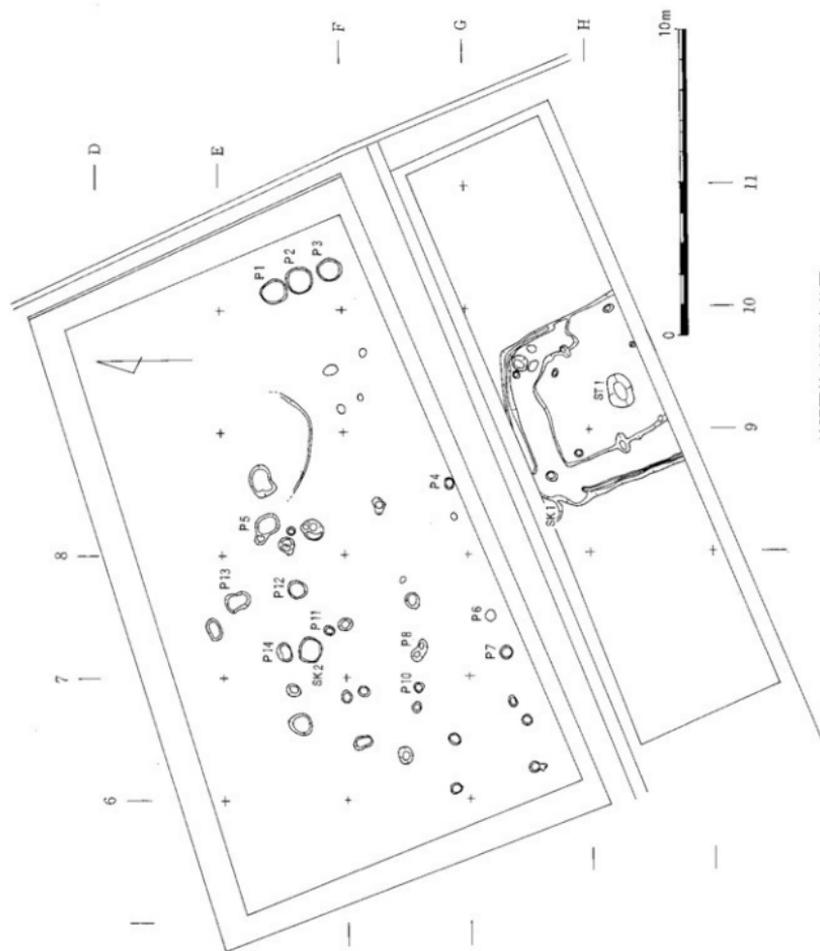
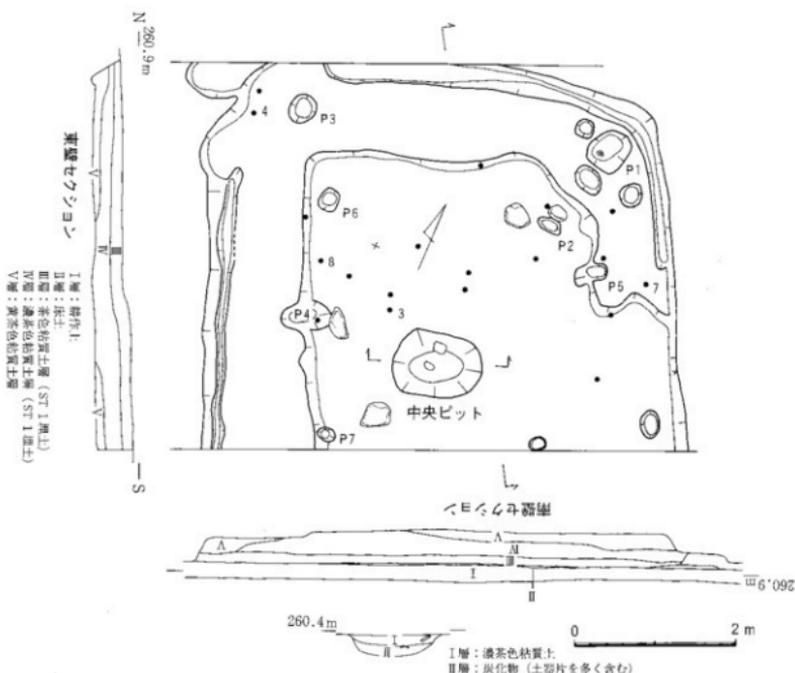


Fig. 5 擴張区検出遺構全体図

部を成形している。また壁溝を有しているが、西側と北側及び東側の一部に認められるのみで、全周はしていない。幅は10cm~15cmで、深さは2cm~5cmを測り、比較的浅い溝となっている。但し、幅については北側で広がっており、30cm程度を測る。床面中央より南よりに中央ピットが存在する。110cm×80cmで、東西方向に長い楕円形のプランを有し、深さは25cmを測る。埋土は2層に分かれ、I層は濃茶色粘質土でII層は炭化物の堆積層となっている。主柱穴としてはピットP2・P6・P7が想定される。それぞれの規模は、P2…42×17、深さ46・P6…27×23、深さ41・P7…24×17、深さ38（単位はcm）となる。4本柱の竪穴住居と考えられるが、南東部分では主柱穴と想定されるピットは検出されなかった。

出土遺物は、土器破片が主であり、図示できるものは1~14の14点である。床面から甕（1）が、また北東部の比較的大きなP1底部からも甕（5）が出土している。そのほかの遺物は包含層下層部から、甕（2~4, 6, 7）、鉢（8, 9）、高坏（11, 12）が、このほか 鏡（13）、打製石包丁（14）が出土している。（2）は搬入品であり、庄内式土器である。

土器は全て弥生後期末に属し、庄内式土器を伴っていることから、この竪穴住居は古墳時代初頭に機能していたものと考えられる。



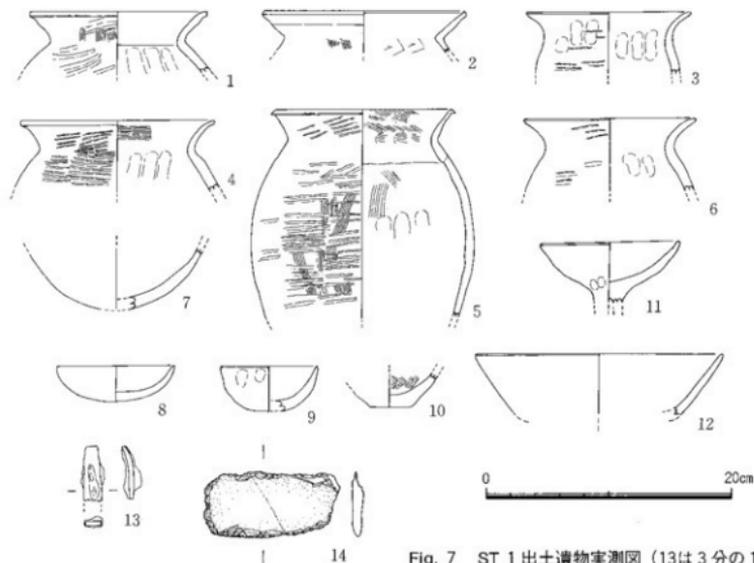


Fig. 7 ST 1 出土遺物実測図 (13は3分の1縮尺)

(2) その他の遺構及び包含層出土遺物

1) 土坑

SK 1

拡張調査区南の堅穴住居址北西部にある。東側を住居址に切られるように存在しており、また北部は調査対象区外のため、全体のプランは把握できない。確認できた部分の長軸は85cm、深さは9cmを測る。床面はほぼ平坦を成しており、炭化物が検出されている。埋土は濃茶色粘質土単純一層である。埋土中より、古式土師器の細片が数点出土したが、図化できるものはない。古墳時代のもと考えられる。

SK 2

拡張調査区北側の中央よりやや西に位置する。ほぼ方形のプランを呈し、長軸81cm、短軸72cm、深さ23cmを測る。床は平坦面を成し、断面形は逆台形である。埋土中から人頭大でやや平らな礫三個ほどと共に中世の青磁碗 (19) が出土している。

2) ビット

P 1 (86cm×77cm・深さ35cm), P 2 (直径84cmの円形・深さ25cm), P 3 (直径77cmの不整円形・深さ10cm) は、拡張調査区北側の北東隅に位置する。比較的大きなもので、また3つが北北西と南南東を結ぶライン上に並ぶように存在している。しかしながらビット内からは遺物等の検出はなく、時期や性格は不明である。

P 6 (直径34cmの円形・深さ38cm)は、拡張調査区北側の南東にある。砥石 (22) が出土している。22の表面は使用痕が明確で、激しく摩耗している。時期については限定できない。

P 11 (36cm×30cm・深さ18cm)は、SK 2の南東に隣接する。青磁碗 (18) が出土している。

P 13 (82cm×50cmの瓢箪形・深さ17cmで底部の北と南がやや高い)はSK 2の北東2mほどのところにあり、P 14 (53cm×48cmの三角形に近い楕円形・深さ21cmだが、内部の4分の3程度はテラスが占める)はSK 2の北側に隣接している。このP 13・P 14からは、接合関係にある中世末のものと思われる土製鍋 (20) の破片が1点ずつ出土している。

3) 包含層出土の遺物

完形品はなく、全て破片であるが、図化できるものとしては、土師器小皿 (15)、小型丸底壺 (16)、土師器塊 (17)、甕 (21) が出土している。また、20と接合関係にある土製鍋の破片が1点出土している。

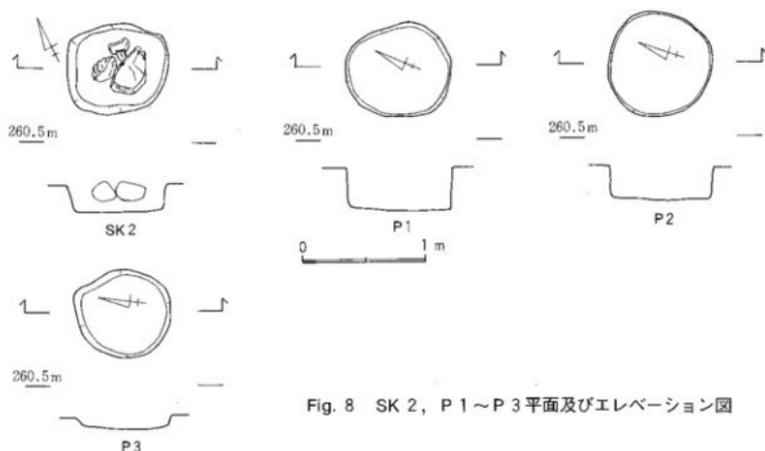


Fig. 8 SK 2, P 1~P 3 平面及びエレベーション図

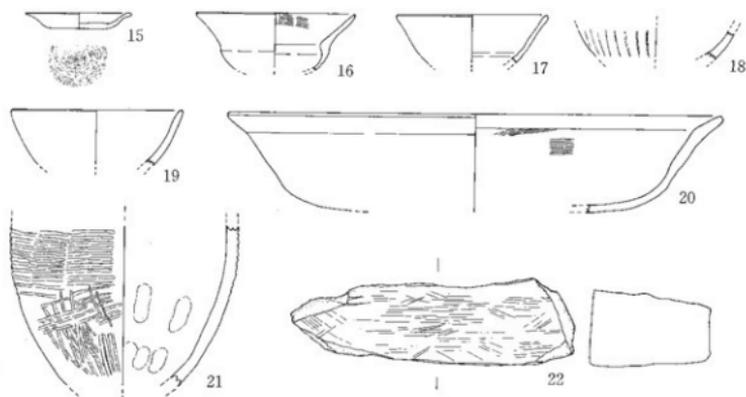


Fig. 9 土坑・ピット包含層出土遺物実測 (P11:18, P13・14:20, P6:22, SK2:19, 他は包含層出土)

第V章 まとめ

今次発掘調査は、第I章でも述べたとおり、圃場整備事業に伴い開発の前段において埋蔵文化財の確認のために実施したが、南泉工区内の田畠遺跡とその周辺についてのみ調査を行った。圃場整備事業区域はより広範であり、また田畠遺跡以外にも事業区域内に所在する遺跡は確認されているが、開発部局との協議の結果、本年度は南泉地区について重点的に調査をすることとなった。

その成果については前章までで既に述べたところである。遺構が確認されたのは、拡張調査区 (Fig. 3の斜線部分) のみであり、その他の箇所については、まったく遺構は確認されなかった。遺物が検出されたテストピットについても、土器の細片が採取されるものの、散発的であり、また、水田床土や客土、旧耕作土中より検出されることも多く、遺物包含層を形成していると認めるには至らなかった。今回の調査結果に基づけば、田畠遺跡における遺構の現存する範囲は、今回確認された拡張調査区の他は拡張区の南側に隣接する休耕田の部分が推定される。これ以外の箇所については、長年のうちの自然災害 (山崩れ) や水田開発またその改良の際に消失してしまった可能性も拭いされない。

以下、拡張調査区での成果をもとに田畠遺跡の位置付けを行い、まとめとしたい。

拡張区上段からは古墳時代初頭の堅穴住居 (ST1) が検出されたが、これは土佐町における古代住居址としては初めての確認となった。ST1からの出土土器は壺が多く、当該期土佐の土器組

成一般のあり方と同様である。また搬入品である庄内式土器(2)の出土は、当地への古墳時代社会の到来を示すものと解したい。⁽¹⁾STの検出は1棟にとどまったが、周辺部に数棟存在し、集落を成していたと考えるのが妥当であろう。拡張区下段からは、SK2のほか、ピットは遺物の出土しなかったものも含めると40を数える。しかしながら時期を比定できる遺構は少なく、またその性格についても明確にできるだけの資料は得られなかった。

僅少な資料に基づいて判断すれば、古墳時代初頭に集落としての機能を有していた遺跡として位置付けられる。中世から近世にかけては、資料が乏しく明言を避けたい。田島遺跡は、土佐町における古代住居址の初検出例として今後も重要な位置を占めることになろうが、当該期の拠点集落としては立地条件等を勘案して、田島よりやや下流の宮古野地区、三島地区に広がる河岸段丘上の平坦部にその存在を求めたい。宮古野、三島には現在確認されている遺跡はないが、今後試掘調査の必要が求められる。

一方、八反坪遺跡からヒビノキⅢ式土器片(古墳時代初頭)が出土しており、また、その対岸の松ノ木遺跡からも、弥生時代後期末から古墳時代にかけての竪穴住居址が14棟⁽²⁾検出されている。こうした状況とも関連を持つと思われるが、土佐町における古代集落の展開については、未だ資料が⁽³⁾十分ではなく、今後の調査成果を待つこととしたい。

註

- (1) 出原恵三 「土佐の弥生後期土器編年」『土器からみた瀬戸内の弥生文化 瀬戸内の弥生後期土器の編年と地域性』 古代学協会四国支部第四回大会資料 1990年
- (2) 岡本健児・宅間一之・森田尚宏・井本葉子 「玉屋敷・八反坪遺跡と出土遺物」『土佐町資料』 高知県土佐郡土佐町教育委員会 1981年
- (3) 出原恵三 「松ノ木遺跡Ⅱ」 高知県本山町教育委員会 1992年
出原恵三・前田光雄 「松ノ木遺跡Ⅳ」 高知県本山町教育委員会 1996年

遺物観察表 (土器)

挿図番号	出土地点	器種	法量 (cm)	口径 器高 胴径 底径	特 徴	備 考
Fig. 7-1	ST1	甕	14.3 — —	— — —	チャート、その他の粗粒砂を含む。灰茶色。 外面叩き及びハケ。	外面係ける。
Fig. 7-2	＊	＊	16.0 — —	— — —	長石、石英、角閃石を含む。 胴部内面へク削り。 圧凸式土器。	外面致しく 係ける。
Fig. 7-3	＊	＊	13.2 — —	— — —	チャート、結晶片岩、粗粒砂を多く含む。灰茶色。 叩き成形。	
Fig. 7-4	＊	＊	— — —	— — —	チャートの小礫、粗粒砂を多く含む。 外面叩き、口縁内面横ハケ、胴部内面粗ナデ。	外面係ける。
Fig. 7-5	ST 1. P1	＊	14.0 — —	— — —	外面叩き、口縁内面に右下がりハケ調整。上胴部内面ハケ、以下指ナデ調整。	上胴部の一 部を除いて 係ける。
Fig. 7-6	ST1	＊	13.5 — —	— — —	チャート、他の粗粒砂を多く含む。灰茶色。	外面係ける。
Fig. 7-7	＊	＊	— — —	— — —	結晶片岩小礫、粗粒を多く含む。灰色。 丸底。内面・外面ともナデ調整。	
Fig. 7-8	＊	鉢	9.5 2.9 —	— — —	結晶片岩の粗粒を多く含む。灰茶色。 内外面共に磨盤の荒れが激しい。	
Fig. 7-9	＊	＊	7.7 — —	— — —	結晶片岩他の粗粒を多く含む。	外面係ける。
Fig. 7-10	＊	鉢(?)	— — 3.5	— — —	チャート、石英、結晶片岩粒を含む。 内面ハケ、外面ナデ調整。 鉢底とみられる。	内底よりやや 上部、係 ける。
Fig. 7-11	＊	高坏	10.0 4.0 (坏部)	— — —	結晶片岩を多く含む。	
Fig. 7-12	＊	＊	19.8 — —	— — —	結晶片岩、長石、粗・細粒砂を含む。茶色。 内面ヘラミガキを施す。	
Fig. 9-15	包含層	土師小皿	8.0 1.3 — 4.5	— — — —	チャート、他の砂粒を少量含む。 口縁部は緩やかに外反する。 糸切版。	
Fig. 9-16	＊	小型 丸底甕	12.8 — —	— — —	砂粒をほとんど含まない。茶色。 外縁ヘラミガキ、口縁内面ハケ調整。 胴部と比して大きな口辺部を持つ。	
Fig. 9-17	＊	土師部碗	— — —	— — —	精製された粘土。ロクロ成形。 内面底部付近にロクロ目がみられる。	外面わずかに 係ける。
Fig. 9-18	P 11	青磁碗	— — —	— — —	胎土はセピア色で堅緻。釉は緑褐色。 外面に磨擦文を施す。	
Fig. 9-19	SK2	＊	— — —	— — —	胎土は灰土色で、粗い。釉はあせた青灰色。	
Fig. 9-20	P 13 P 14 包含層	土鍋	— — —	— — —	長石、石英粒を多く含む。 外面はナデ、内面はハケ+横ナデ調整。	内・外面とも 口縁部付近 以外係 ける。
Fig. 9-21	包含層	甕	— — —	— — —	結晶片岩粒を多く含む。灰茶色。 叩き成形で、胴部中央は水平方向、下半は縦方向に変わる。 丸底と思われる。	外面係ける。

遺物観察表 (鉄器及び石器)

調査番号	出土地点	器種	法量(cm)	材質	特徴	備考
Fig. 7-13	ST1	鉋	身部長 1.3 厚さ 0.4		刃部の破片である。	
Fig. 7-14	◆	石包丁	全長 8.3 全幅 4.1 厚さ 0.7 重さ 32.4g	結晶片岩	打製。一面は自然面、他面は制縁面。四辺すべてに鋭い調整痕あり。	
Fig. 9-22	P6	砥石	全長 17.4 全幅 5.3 厚さ 7.5 重さ 1.194g	硬質砂岩	使用面は一面だが、顕著な使用痕が認められる。激しく磨耗しており、凹状を呈している。	

写 真 图 版

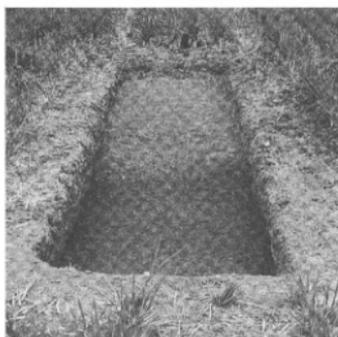


田島遺跡全景

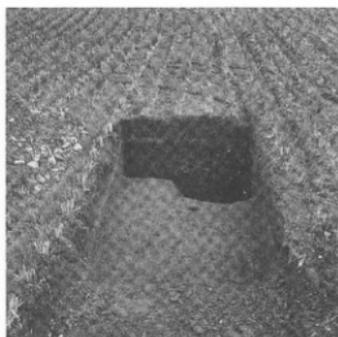


拡張区発掘調査風景

PL 2



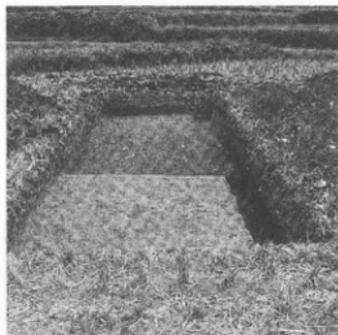
G 1



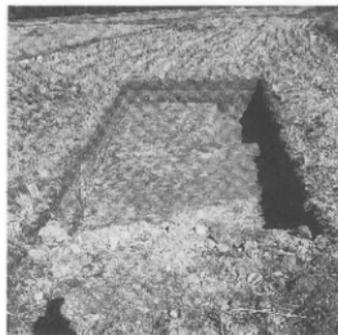
G 2



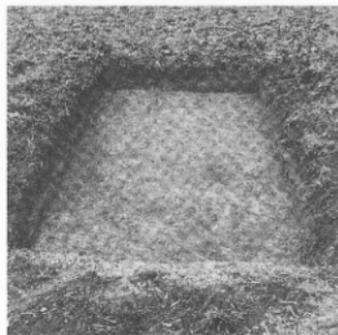
G 5



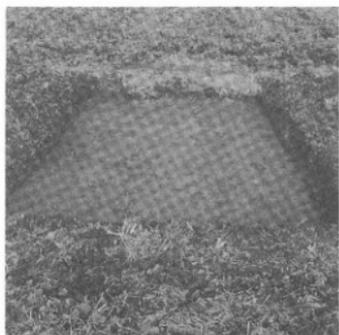
G 7



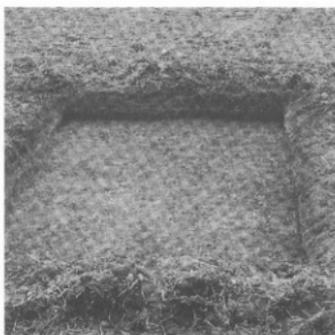
G 9



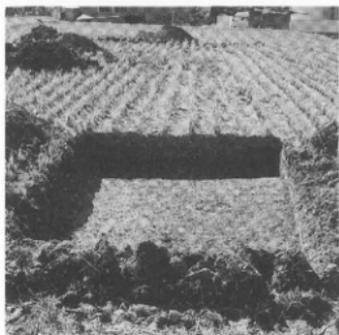
G 10



G11



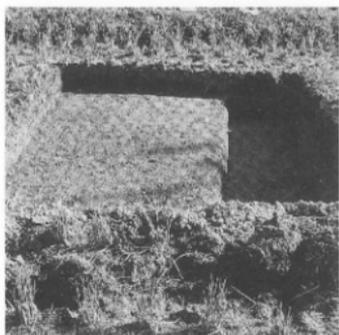
G12



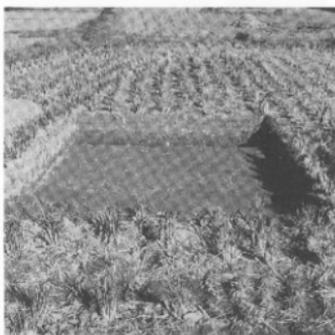
G13



G14



G15

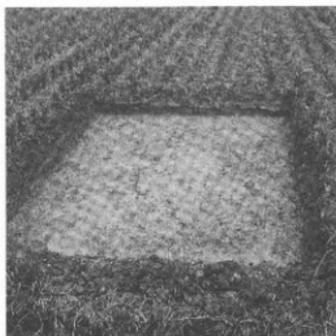


G16

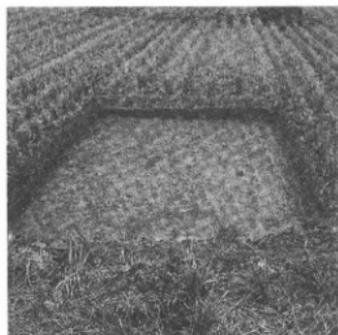
PL 4



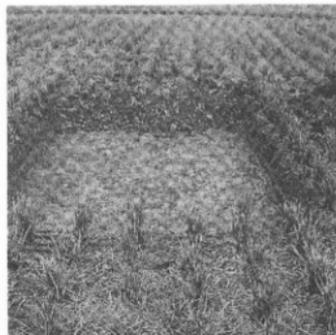
G20



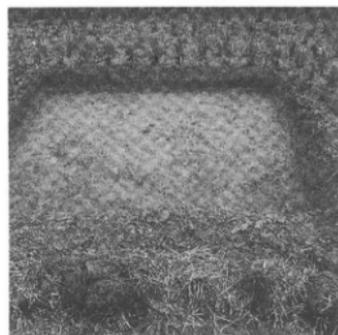
G21



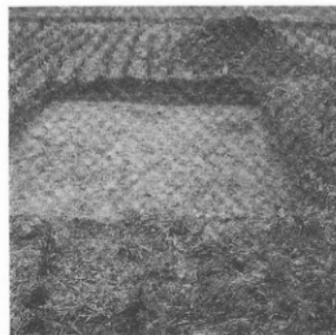
G22



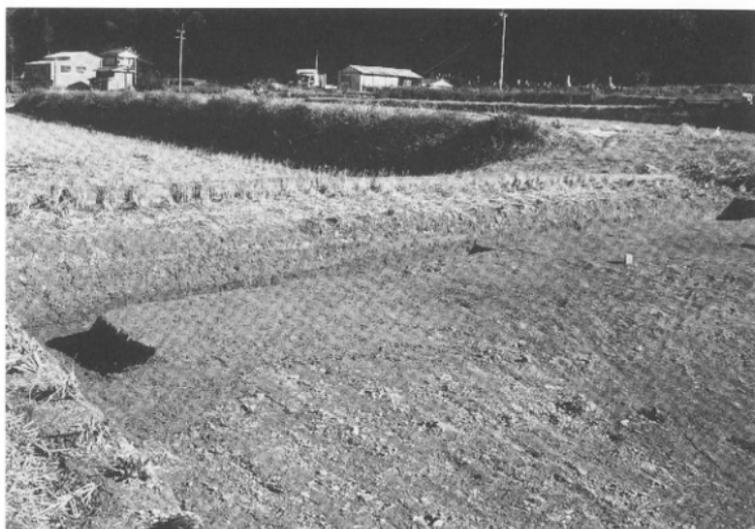
G23



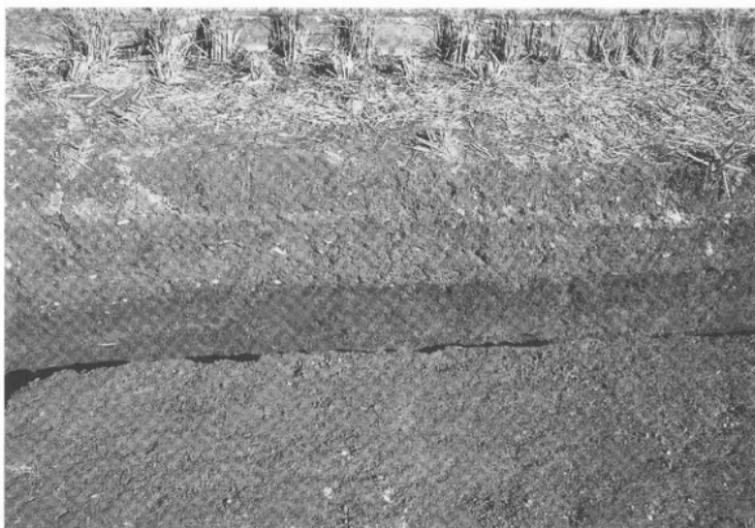
G29



G31



下段 東壁セクション

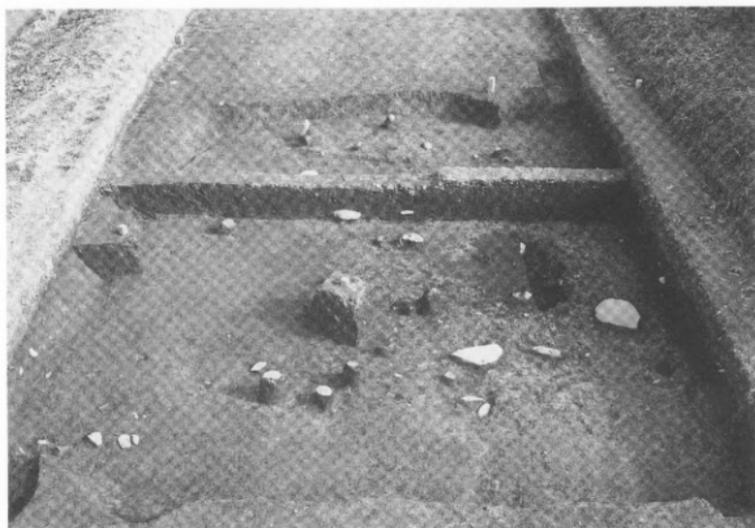


同上

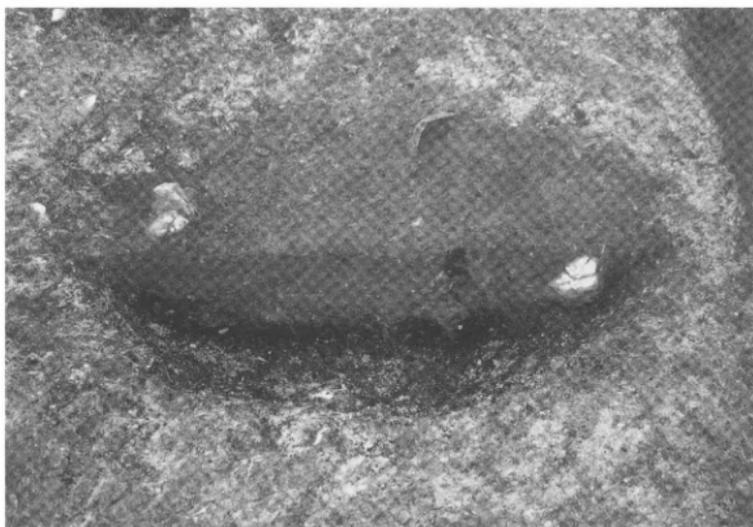
PL 6



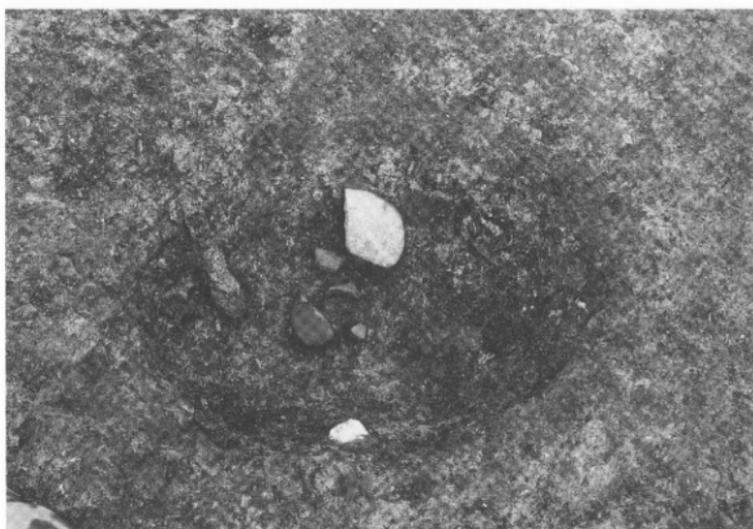
ST 1 検出状況



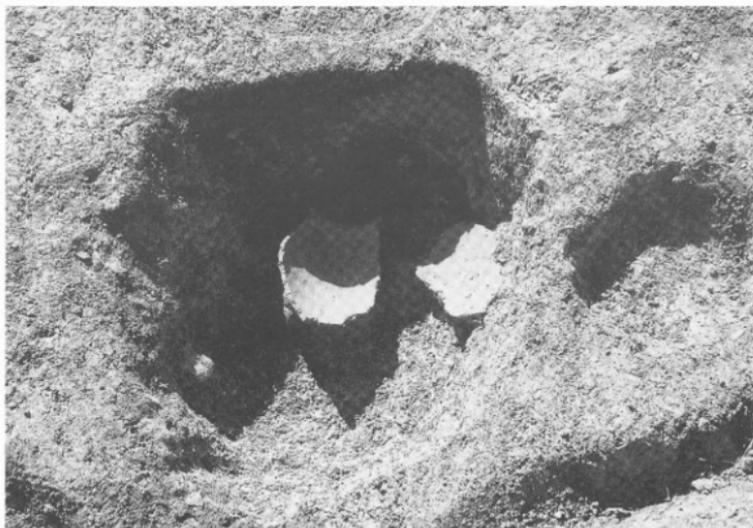
ST 1 セクション及び遺物出土状況



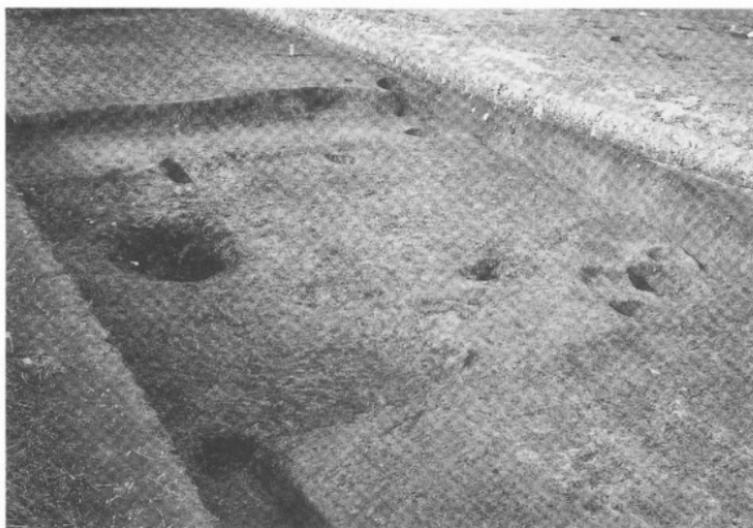
ST 1 中央ビット半截



ST 1 中央ビット完掘状況



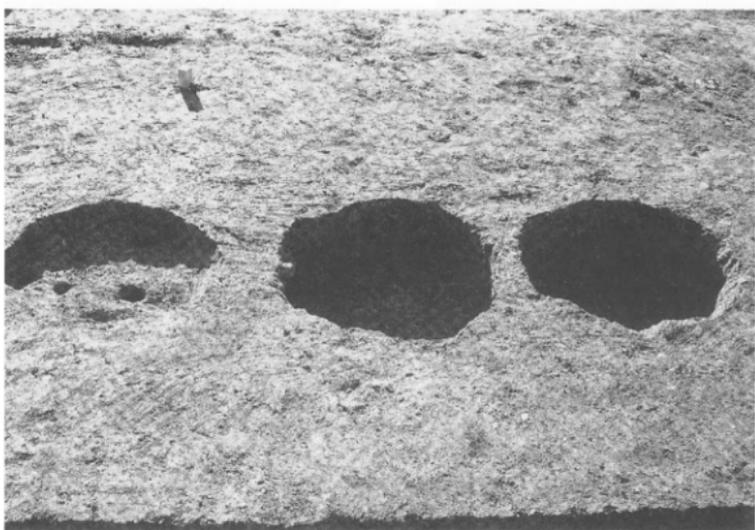
ST 1 - P 1 遺物出土状況



ST 1 完掘状況 (東から)

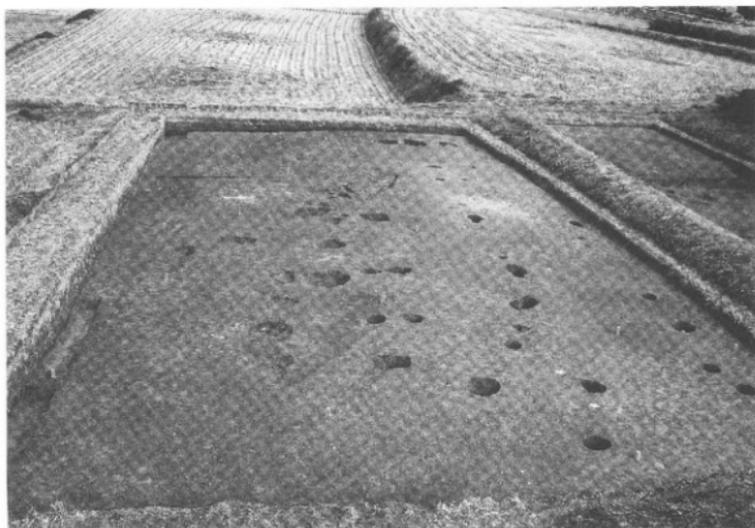


上段 調査区全景



P1・2・3完掘状況

PL 10



拡張区（下段）完掘状況（西から）



拡張区完掘状況遠景（東から）



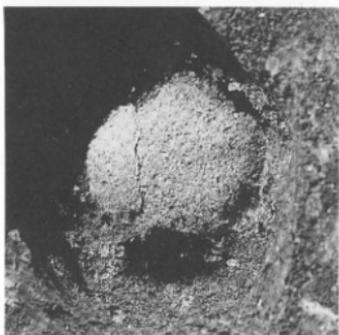
ST 1 (3)



ST 1 (11)



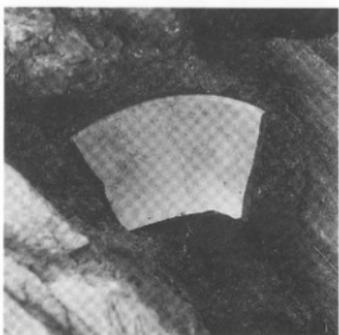
ST 1 (13)



ST 1 (8)

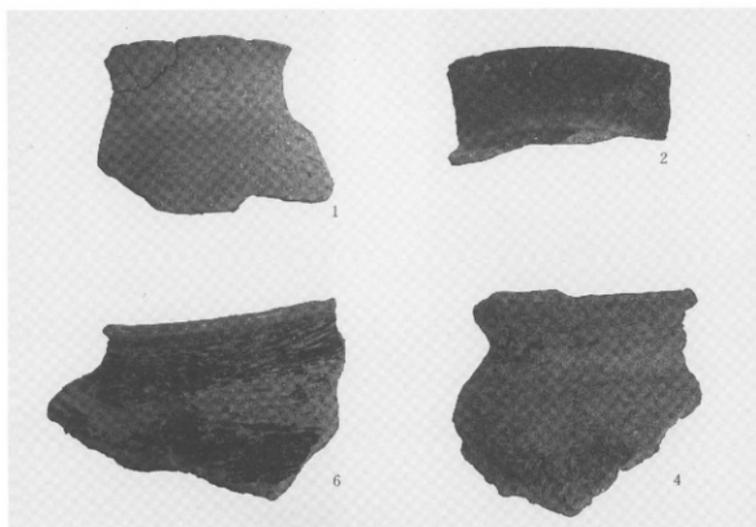


SK 2

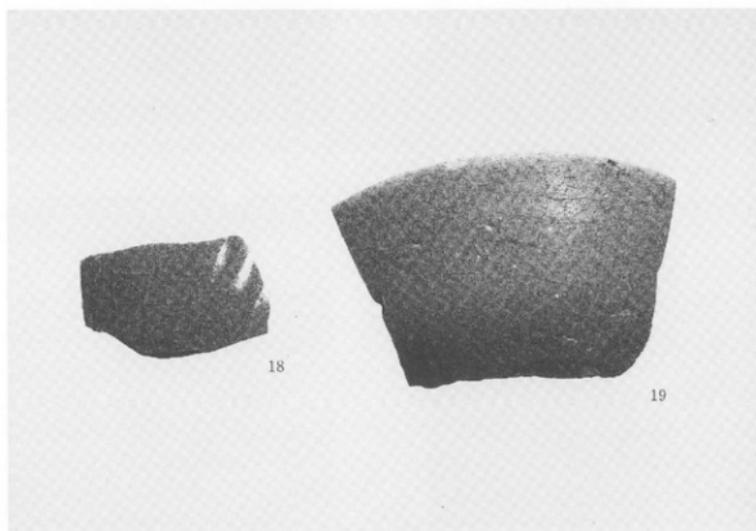


同左 遺物出土状況 (19)

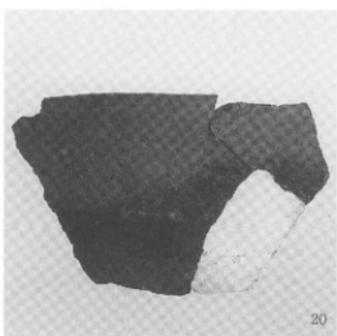
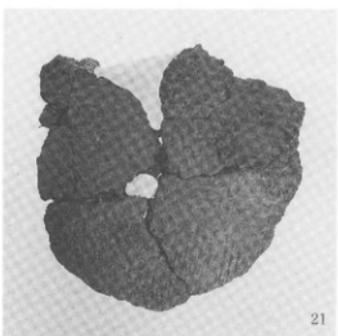
遺物出土状況



ST 1 出土遺物



SK 2 (19) ・ P11 (18) 出土遺物



ST 1 (5 · 8 · 10 · 11), P13 · 14 (20), 包含層 (21) 出土遺物

報告書抄録

ふりがな	たばたけいせき							
書名	田 畠 遺 跡							
副書名	宮古野地区県営圃場整備事業に伴う田畠遺跡発掘調査報告書							
巻次	1							
シリーズ名	土佐町埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第1集							
編著者名	筒井敬二							
編集機関	高知県土佐郡土佐町教育委員会							
所在地	〒781-34 高知県土佐郡土佐町土居177 TEL 0887-82-0483							
発行年月日	西暦 1996年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たばたけいせき 田 畠 遺 跡	〒781-34 土佐郡土佐町 南泉字田畠	39363	290016	33度 44分 05秒	133度 32分 14秒	H 7 11月6日 5 12月7日	500	宮古野地区 県営圃場整備事業に伴う調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
田畠遺跡	集落跡	弥生 中世 近世	竪穴住居	弥生土器 土師質土器 近世陶磁器		古墳時代初頭の竪穴住居址を確認		

田 畠 遺 跡

(土佐町埋蔵文化財発掘調査報告書第1集)

1996年3月

編 集 高知県土佐町教育委員会
発 行 高知県土佐郡土佐町土居177
電話 (0887)82-0483
印 刷 西村 謹 写 堂